

ちがいに目をつけて

◎校内研究では、はじめてのTT方式による研究授業です。T1の友子先生とT2の祐介先生の仕事分担やアナウンスの連携、座席表の記入の工夫など新しい試みがなされていました。また、事前に1組で模擬授業に取組、浮かんできた反省点を生かしながらの授業でした。



◇事前検討会から◇

○その1

掲示物の工夫

→事前授業で誤答が多かった原因は、掲示物ではないか

ということになり、ICTを取り入れた授業に挑戦する。黒板のスペースも同時に確保できる利点もある。



○その2

時間の確保

→典明先生の授業を受け、最後の「類似問題にける時間を増やす」ことにしました。全体の流れは40分で計画し、全体的に余裕を持って進めることができるようにした配慮です。

○その3

児童の思考を混乱させない

→掲示物が児童の思考を混乱させてしまった先行授業でした。なので、今回は「線分図」として混乱がないように掲示物を工夫し、発表し

やすいようにICTも活用してみようということになりました。

○その4

学習シートの工夫

→先行授業のペア学習の際に、答えが間違っている友達の意見を一生懸命写していた子供たち。正解を記録させたいので、ペア学習の際の「友達の考え」の欄を削除し

ました。

【事後検討会】

〈自評〉

- 予定していたところまで進むことができなかった。時間短縮や指導過程の見直しが必要である。
- 正解半分、不正解半分の時に、ペア学習をしてしまうと「学び合い」としては難しいと感じた。
- 「聞きながらメモを取らせる」か「聞き終わってからメモを取る」どちらが良いのか。

〈参観者から〉

- パソコンを使った線分図の説明が分かりやすかった。
- 発表の仕方について。「はじめに」「つぎに」などを使い上手に説明できている児童を見本にして、ペア学習に入ったことは、他の児童にとっても分かりやすかった。
- 児童が説明に集中できるように、教師は補足しながら板書したのはとても良かった。
- 発表させる順番をどう構成していくのか。「高め合い」にも似た構成が必要なるのではないか。



【課題のリレー】

(有効・・・○ 課題・・・●)

- 問題（課題）を児童に理解させるためにICT活用は効果的であった。
- 全体発表の順番の構成の仕方（間違いをどこで扱うか）。
- メモの取らせ方（ペア学習時も含む）をどうするか。

次回の授業は、

10月後半	3年2組	瑞希先生	「小数」
10月後半	2年1組	典昭先生	「かけ算」

乱筆乱文ですみません。修行していきます。m(._.)m